

第 1 回検討委員会で出された意見の概要

1 景観への配慮

(1) シビックプライドとしての景観資源（桜島，錦江湾）

- ・ 桜島を抱（いだ）く借景は，唯一無二のもの。鹿児島に住んで良かったなというシビックプライド（県民の誇り）は非常に大きなキーワード。鹿児島に住んで良かったなと思わせるようなエリアであれば，おのずと観光客も集まってくる。
- ・ 世界でも稀な，活火山を背景に抱（いだ）く極上のウォーターフロントエリアであることを再認識すべき。ウォーターフロント開発について，世界に多くの成功事例があるが，根底にあるのは地元住民に支持され愛されているということであることをもう一度リマインドすべき。
- ・ 景観資源を主軸とした活用という点で，このエリアから眺める桜島と錦江湾という景観は，何物にも代え難い資源。その景観資源を私達が日々の暮らしの中でどう結びつけていくのか，この場所でどう過ごしたいのかということを，1人1人が想像して，ワクワクできるような場所であってほしい。
- ・ 県民全体のものとして，ウォーターフロントパークは守る。
- ・ 海辺の景観，特に海に親しめる空間を残し，シビックプライドとしての景観を保全した上で，ここの土地利用，まちづくりをどうするかということを考えていく必要がある。

- ・ シビックプライドの観点で、本港区のウォーターフロント地区の価値を、経済効果や収益性のために使い果たしていいのかという議論もすべき。全部使ってしまうのではなく、シビックプライドのために残しておくことが必要。収益性につながるからと言って100パーセントそこを活用するのは問題あり。次の世代のために景観資源を消費しきらないということも大事な視点。
- ・ 今回の検討委員会の最終的なアウトプットであるゾーニングに加えて、デザインをどうするか、空間の整備と保全の方向性をどうするかまでしっかりと議論を進め、市民、県民の方に提示して納得いただくという委員会としての役割があると認識。

(2) 景観（デザイン）マネジメント

- ・ 景観を阻害するような高い建物が立つことには否定的だが、新たな総合体育館をこのエリアに設置する意義についても理解できる。ウォーターフロントパークは保全されるということで、景観資源を最大限活かすということを経営に計画の検討の余地はある。
- ・ ウォーターフロントパークは、更に公園としての機能を充実させ、スポーツ・コンベンションセンターと一体的に整備することも必要ではないか。
- ・ 景観マネジメントの組織化という点で、自然だけではなく、人やモノがこの場所をつくっていく新たな景観というものも、まちの魅力につながっていく中で、デザインの発想というのが不可欠。本港区全体のデザインコントロール、エリアマネジメントが必要なのではないか。
- ・ 建物も含めての景観について全体イメージがないといけない。
- ・ （ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの）ちょうど間に臨港道路南北ふ頭線があるが、ここのデザインがすごく大事。（ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの）

どちらからも自然につながるようにすべき。道路のところを本当にきちんとつくらないといけない。逆に言うと、道路を少し変えることも含めて、色々なデザインにすべき。

- ・ スポーツ・コンベンションセンターは、ボリュームがあり、外側は壁になりがちなので、道路側（ウォーターフロントパーク側）に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターとウォーターフロントパークが別々の感じできてしまうとすごく困るという感じがする。

2 将来の時間軸

- ・ 時間軸で言うと、現在と未来という部分で考えるということ。今、我々が良かれと思ってやってることが、30年、50年先には、我々は居ない可能性が高い。そうするとやや無責任な話になってしまうかもしれない。
- ・ 「eスポーツ」やボルダリングなど新しいスポーツをやり始めているような人達も含めて色々な意見を聞きながら、今、我々がいいと思っていることが30年、50年、継続して使われるような施設を考えたい。
- ・ 時間軸と空間軸を広げて議論しないと、納得したコンセンサスは市民、県民の方には得られないのではないか。

3 中心市街地との連携

- ・ 本港区エリアのグランドデザインは、鹿児島自身のまちづくりのグランドデザインと一体化させ、市もしくは県のまちづくりの全体像の中で、この本港区エリアはどういう位置付けか、もっと大きなグランドデザインの中で絵を描いていくことが必要ではないか。

- ・ 人流の回遊性や連動性をいかに持たせるかは非常に重要。天文館から本港区エリアは微妙な距離だが、車での移動ではなく、歩けるまち、自転車での回遊など、回遊性が高まれば高まるほど経済効果は大きくなる。
- ・ （スポーツ・コンベンションセンターがある本港区側では）たくさんの方が回遊してもらって、天文館の方に流れていくような仕組みを、外とつなぐ仕組みをつくっていくということも必要。
- ・ ドルフィンポートを中心とした本港区のまちづくりは、本港区エリアでやらなければいけないことと、周りの中心市街地のできることとの役割分担と相乗効果を考える必要がある。
- ・ アフターコンベンションが大きな魅力であり、天文館は非常に大きな武器になり得る。

4 公共機能の確保（港湾や交通など）

- ・ これだけものが入ってくると、交通の問題はどうしても考えなければならず、公共交通網をどうやって導入していくのかということと、港湾に従事する方々の機能が不全化しないかというようなこともしっかり議論を進めるべき。

5 導入機能

- ・ 商工会議所自体が、10年後、20年後、30年後、まちづくりをどうすべきかということを当事者意識で外注し、それが12月に完成する予定。
- ・ どういった機能が必要かというゾーニングも必要だが、その前にもう一回リマインドし、どんな施設、機能が必要かということも話をしていくべき。展示場も含めてそういったものも考えていかないといけないし、市民、県民の目線の中でのアミューズメント施設や、景観を大事にする場所というのをどう確保するかという話も必要。場合によっては、道路の付け替えや、港湾計画の変更についても、10年、20年、30年という時

間軸の中で考え、それを踏まえてゾーニングすべき。

6 クルーズ船の受け入れ体制（観光拠点）

- ・ クルーズ船を受け入れる体制が何もできていない。
- ・ クルーズ船が入るマリンポートにふさわしい国際観光都市を（本港区に）つくらないといけない。

7 県民の参画

- ・ 県民の参画という点で、（スポーツ・コンベンションセンターの）計画において、事前に商業施設やイベントでパネル展示して情報提供したり、この会議においても、当初の傍聴人数を増やしたり、ネットで配信したりするなど、幅広く周知しようとしている県の姿勢が感じられる。
- ・ 情報を得て興味や関心を持った方々が自身の意見を例えばネット上で発信して県に伝える、他の方がどういう考え方を持っているかということを知ることができるという仕組みが必要なのではないか。幅広い意見を集約することで、参画の意識も高まり、充実した議論につながるのではないか。

8 サッカー等スタジアム

- ・ (市としては,) 天文館など中心市街地の活性化を図るため, 中央駅から本港区エリアまで歩いて楽しめるまちづくりを進めるとともに, 中心市街地のみならず県全体への経済波及効果をもたらすため, スタジアムの整備に向けた検討を進めている。
- ・ (市としては,) スタジアムは, スポーツを通じたまちづくりを進める上で核となる大変重要な施設であると考えている。
- ・ (市としては,) 日常的に市民や観光客など多くの人で賑わう多機能複合型のスタジアムは, グランドデザインの開発コンセプトと整合するものと考えている。
- ・ 市が考えているJ2の試合のためのサッカー場をウォーターフロントにつくるのは, 将来的にあまり必要がない。
- ・ ウォーターフロントの県有地に, 市が税金を使ってサッカー場をつくる時に, 市の検討委員会で(ウォーターフロントの)3ヶ所が決まったということを, 県の検討委員会で発言しても何の意味もない。
県もそういう場を設けること自体, 変ではないか。委員の方に錯覚させると思う。
- ・ ウォーターフロントにサッカー場をつくるのが, 県や県民にとって, どれだけメリットがあるかということを示して始めて納得がいく。市の検討委員会で(ウォーターフロントの)3ヶ所が正当化される中で, 県の検討委員会で説明をすること自体が納得いかない。
- ・ 市の色んなアイデアは, アリーナ(スポーツ・コンベンションセンター)でも十分できることが多いので, アリーナでやってもらう。サッカー等スタジアムがここにあるというのは, 市民にウォーターフロントを開放するという考えからすると随分違う。

9 スポーツ・コンベンションセンター

(1) 開かれた施設, 施設のデザインなど, 本港区エリアにふさわしい施設整備

- ・ スポーツ・コンベンションセンターは、本来の主旨である会議場とスポーツ振興に全力投球してもらうことが、第1優先事項。
- ・ スポーツ・コンベンションセンターは、ボリュームがあり、外側は壁になりがちなので、道路側（ウォーターフロントパーク側）に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターとウォーターフロントパークが別々の感じできてしまうとすごく困るという感じがする。【再掲】
- ・ PFIは値段と運営とデザインが一緒に決まる。デザインは大事だが、一回PFIで決めると、なかなか変えられない。デザインを決める仕組みと、その後の運営とを分けて考える必要があるのではないか。
- ・ 「eスポーツ」やボルダリングなど新しいスポーツをやり始めているような人達も含めて色々な意見を聞きながら、今、我々がいいと思っていることが30年、50年継続して使われるような施設を考えたい。【再掲】

(2) 機能, 規模・構成

- ・ (スポーツ・コンベンションセンターの)コンベンション機能の方は、MICEで言うのであれば、MとIとCだと思う。一般的に学会とか会議と言われるもの。中途半端な施設をつくるのが一番まずい。スペックにこだわる必要あり。
- ・ スポーツ・コンベンションセンターでできるのは開会式と閉会式と基調講演ぐらいで、全部のコンベンション機能がここでできるわけではないと思っている。展示場も含めてそういったものも考えていかないといけない。

(3) 配置計画

- ・ 体育館は、住吉地区にずらせば済む話ではないか。
- ・ ドルフィンポート跡地のスポ・コン（会議所内では体育館プラスアルファと呼称）については、会議所の構想に前提として入っている。
- ・ 体育館整備の委員会に参加し、場所については、できるだけ都市に近いところがふさわしいというところまでは決まった。体育館の委員会の中では、だいたいあの辺りということまでは決められるが、次はやはりまちづくりの主体となっていくまちで集う人達、働く人達、活かす人達という中で議論していかないと決められないと思っており、この委員会が今回ある意味ではそこだと思っている。

(4) 運営・管理

- ・ スポーツ施設については、コストセンターからプロフィットセンターに変えるため、施設の稼働率を上げる必要がある。世界のスポーツ施設を軸にしたまちの再開発は、ほぼ例外なくプロスポーツチームのホームタウンとして活かしており、鹿児島もそれは例外ではない。
- ・ コンベンションは競争相手があり、必ず誘致コストがかかるので、そこをできるだけ抑える必要あり。